

令和5年度さいたま市立与野南中学校 学校だより

み な み か ぜ



# 南風

第 4 号

令和5年7月3日発行

<http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp>

<学校教育目標> 進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒

## 旅の楽しみ～修学旅行にあたって思い出すことなど

校長 吉原 誠 士

7月第1週に修学旅行が予定されています。ここ数年の梅雨には安定感がなく、出梅後は奈良や京都では盆地特有の酷暑にも見舞われます。気候のいい時期を狙おうにもそうしないのは、旅行日程は「関東地区公立中学校修学旅行委員会」により2年前（つまり実施となる生徒の1年時）に指定されるからです。東京駅発の専用列車で効率よく関西方面に移動できること、料金が「団体料金」よりも安く設定されていること、宿舎も含めて学校ごとに予約する手間がないこと、さらには中学生と乗り合わせてしまって戸惑う一般の方々の表情を思えば・・・定められたところに従うのが上策だと考えています。

旅については、過去の偉人達も多くの言葉を残しています。未知の場所を訪れば、常に新たな発見があり、それを通じて心に訴えかけがあるのが一番の楽しみです。ほとんど遠出することのなかった私にとっても、中学時代の修学旅行のインパクトは大きなものでした。法隆寺の埃っぽい玉砂利の道も、建設が始まっていなかった薬師寺西塔の礎石もはっきりと記憶に残っています。最終日のクラス別コースには「さいほうじ西芳寺・そそのか三十三間堂」にするよう学級委員をかな唆しました。実際に目にした時に受けた強烈な印象は脳に焼き付いて離れません。最高の選択でした。これまで何度も書いてきたように、例え優れた構成の事前学習であっても、生の対象物に直接対峙して受ける学びと感覚には絶対に敵いません。

また、記憶に残る土地を再訪することは、旅のもう一つのお楽しみです。ねんがんかな先日、念願叶って上に書いた「西芳寺」を参観しました。通称「苔寺」と呼ばれるこのお寺は、中学生を含む一般客の受け入れを私たちの訪問の年で終えてしまいました。現在は予約制となっていて、ようやく今年、梅雨に打たれた庭園を楽しむ“ベストシーズン”に参拝許可を得ることができました。47年前を思い出しつつ、目に映る風景と頭の中を去来する思いを楽しみました。同じ場所を繰り返し訪ねても、その度に新たな知見が得られ、新鮮な感想を抱くことができるのは喜ばしいことです。

苔寺訪問は早朝出発の弾丸ツアーでした。他の施設は一切見学せず（近くには鈴虫寺など名所はいくつかあり、嵐山も近い）、帰りは新幹線を乗り継いで大宮に着きました。かなり贅沢なプログラムですが、こんなに急ぎであっても、満足感は十分得られました。それは、日本文化の再確認であり、言わば中学生時代の自分との再会だったからです。そして私の無類の楽しみでもある、「五感を通じた情報のインプットとその処理の堪能」になっていたからです。修学旅行を含めた本校の校外学習が、将来に渡り生徒の何らかして楽しみに結びつくことを期待します。今後も各学年で行事が組まれます。3年間を見通したプログラム、単に班別行動で終わらせない担当者たちの心意気も楽しみにしててください。